

諫早市立  
喜々津小学校  
学校だより

# 喜望

令和4年度 第8号  
令和4年8月9日  
文責 校長 金子友久

夏休みの約半分が過ぎました。久しぶりに会った子どもたちの様子から、夏休みを楽しんでいることが伺えます。しかし、夏休みに入る頃から、新型コロナウイルス感染症の第7波が押し寄せ、長崎県内は先々週から高止まりの状態です。

本校でも子どもたちの感染が報告されています。保護者の皆様には、引き続き**お子さんの健康管理**について、**ご配慮と見守り**をお願いしたいと思います。

## 確実に伝えたい！ ～2部制で行った平和集会～



長崎に原子爆弾が投下されて77回目の8月9日を迎えました。

昨年度の原爆死没者名簿登録者数は、18万9163人にもなり、現在の諫早市の人口をはるかに越える数の尊い命が奪われたことを伝えています。原爆投下の影響は、後遺症や心的な苦しみという形で今もなお続いています。

ロシアのウクライナ侵攻で核兵器を巡る国際情勢が緊迫する中、先に行われた広島での平和記念式典では、国連のグテーレス事務総長が「核兵器保有国が核戦争の可能性を認めることは断じて受け入れられない。ノーモア、ヒロシマ。ノーモア、ナガサキ」と、核兵器の廃絶を訴えました。また、アメリカ・ニューヨークの国連本部で開かれたNPT再検討会議では、田上長崎市長が核の廃絶を訴えるとともに、「広島が『最初の戦争被爆地』として永遠に歴史に記されるとすれば、長崎が『最後の戦争被爆地』として歴史に刻まれ続けるかどうかは、私達がつくっていく未来によって決まります。」と話しました。

そして、今年度の平和集会は、コロナ禍ではありますが、8月9日を後世に残すべく、全校を2つに分けて実施しました。代表委員会で決定したことに沿って、各学年が役割を分担し、なかよし委員会の進行により、各学年が平和についての標語などを発表しました。

6月にはピースバトン・ナガサキさんの講話、7月は4年生が原爆資料館や平和公園を見学しましたが、短時間でもあり、記憶は断片的だったかもしれません。史実をよく知らない子どもたちにとってはわかりにくいと思い、校長の話では、なぜ原爆投下に至ったのか、そして、「これ以上、同じ過ち（「核使用」「戦争」）を繰り返してはいけない！」という趣旨の話をしました。

未来を担う子どもたちには、人類が犯した過ちを確実に伝え、『**争い事の解決は武力行使ではなく、歩み寄って平和的に解決する**』という態度をしっかりと身に付けさせなければなりません。

今日の家族の団らんで、お子さんがどんなことを学んだか、取り上げていただければと思います。



### コラム 深刻な教員不足

学校現場で全国的な課題となっている「教員不足」。その実態をNHKが調査したところ、今年5月時点で2800人が不足していることがわかりました。同じ基準で国が行った去年の調査結果から36%増えて深刻化しており、子どもたちの学びにも影響が出ています。

これは、長崎県・諫早市でも同じ状況です。臨時的な任用の登録者が大変少なく、産休に入る先生の代替もままならない状況です。また、様々な理由で病休をとる教員もおり、先生が元気でない、楽しい授業や子どもへの細やかな指導ができません。本校も欠員が生じており、代替が必要なのですが、未だ代替者が決まっていません。もし、小学校教諭免許をお持ちで、今は教壇に立っていないけど、代替教員をやってもいいという方がいらっしゃったら、本校校長・教頭へ情報をいただければ幸いです。

本日、「学校安心メール」の登録のお願い文書を再配付しています。今後、**学校からの連絡は安心メールに一本化する予定ですので、まだの方は、アプリによる登録**をお願いします。